

RACE REPORT




Round.03 **SUZUKA**

第3戦 鈴鹿サーキット

2023年4月23日(日)

決勝

天候：晴れ 路面：ドライ

#38 坪井 翔

決勝：2位

#39 阪口 晴南

決勝：6位

坪井翔がフロントロウとなる予選2番手、阪口晴南が10番手と、2台ともに上位を見据えるグリッドを獲得することができたP.MU/CERUMO・INGING。この勢いを繋げるべく、チームは4月23日(日)の決勝日に臨んだ。

今回は二輪ロードレースとの併催ということもあり、タイ

ムスケジュールとしてはやや遅めとなる午前11時05分から行われた決勝日のフリー走行で、P.MU/CERUMO・INGINGは燃料を積んだ状態でのセットアップを確認していった。富士スピードウェイでの第2戦での決勝ペースも良好だったことから、その再現を狙いたいところだった。

PRACTICE フリー走行

4月23日(日) 11:05~11:35 天候：晴れ 路面：ドライ
ベストタイム #38 坪井翔 1'41.040 / #39 阪口晴南 1'41.174

この日の鈴鹿サーキットは、前日に続き快晴に恵まれた。ただ今日も風がやや強く、さらに前日同様他併催レース走行後のコンディション変化なども予想された。そんななか、午前11時05分のコースオープン後、坪井、阪口ともに揃ってコースへ向かっていった。

坪井はまず、コースイン直前にピットレーン出口でスタート練習を実施。阪口もアウトラップ後一度ピットに戻り、スタート練習を行った。第1戦の富士ではふたりともに満足がいくスタートを切れなかったことから、スタート練習は非常に重要なもの。ライバルたち同様、入念に練習をこなしした。

その後、坪井は二度のピットインを経て13周を走り1分41秒040というベストタイムで7番手。阪口は合計3回のピットインを行い、トータルで12周を走り、1分41秒174というベストタイムで10番手でフリー走行を終えた。

坪井は途中1分41秒台のラップを重ねており、ライバルと比べても良好なペースではあったが、「鈴鹿ではこのタイヤでロングランができていなかったのですが、けっこうタイヤがタレますね」と振り返った。

「かなり痺れる決勝になりそうですし、タイヤがタレてきたときにどこにバランスを合わせるかは難しいです。その割に

タイムは良かったようなので、逆にチャンスになるかもしれません」と坪井はレースに向け期待を寄せた。

また阪口は、「フリー走行は良くなかったです。決勝ペースに向けて心配になる部分も大きかったのですが、そこを直していきました」とレースペースに向けてはやや不安が残る内容となっていた。

P.MU/CERUMO・INGINGのエンジニアは、このフリー走行で得られたものを決勝に活かすべく、インターバルの間にセットアップをさらに調整していった。



RACE

決勝レース

4月23日(日) 15:45～ 天候:晴れ 路面:ドライ
ベストタイム: #38 坪井翔 1'40.230 (23L) / #39 阪口晴南 1'41.141 (11L)

午前のフリー走行の後、8分間のウォームアップを経て、午後3時45分に迎えた決勝レース。気温21度、路面温度36度というコンディションのなか迎えたスタートだったが、5番手の#5 牧野任祐がグリッド上でストール。エクストラフォーメーションラップが行われ、レースは30周で争われることになった。

スタートでは坪井はやや蹴り出しが遅れたものの、2番手をキープして1コーナーへ入っていく。ポールポジションスタートの#53 大湯都史樹は序盤からプッシュを続け、一方で3番手の#1 野尻智紀は後方から#15 リアム・ローソンに追われることに。坪井は序盤単独走行を続けていった。

一方、10番手から阪口は抜群のスタートを決めると、1周目を6番手で終える。さらに#15 ローソン、#3 山下健太にかわされた#1 野尻が4周目には阪口の前に近づいてきた。ただ逆に、今度は#20 平川亮、#37 宮田莉朋が阪口の背後に接近。熾烈な上位陣のなかでオーバーテイクシステムとタイヤを駆使しながらのバトルとなっていた。

序盤、レースは膠着状態となっていたが、10周を終えピットウィンドウがオープンすると、P.MU/CERUMO・INGINGはアンダーカットを狙い、まず阪口がピットへ。翌11周には坪井がピットインした。

チームは迅速な作業で2台を送り出すが、コースに復帰した坪井の後方からは、阪口と同じ10周でピットインした#15 ローソンが抜群のアウトラップを終え坪井の後方に接近してきた。ここでかわされてしまっは#15 ローソンに封じ込まれてしまう。坪井は1コーナーでマシンを前に入れると、冷えたタイヤで果敢な走りを見せ#15 ローソンをディフェンス。さらに13周目には1分40秒620、翌周も1分40秒950とファステストラップを記録すると、猛プ

ッシュで#15 ローソンを離し、ピットイン組のトップに立った。

ただ中盤、まだピットインを行っていない車両が坪井の前方に近づいきペースを乱されてしまう。まだピットインせずに先頭にいた#53 大湯との位置取りが気になっていた。

そんななか19周を終え、#53 大湯がピットインを行う。ここで坪井はその横を通過しトップを奪うことに成功した。ただ直後、#53 大湯は後方から迫った#1 野尻とS字でクラッシュ。レースはセーフティカーランとなったが、これがP.MU/CERUMO・INGINGにと

っては好ましくない展開となってしまった。

24周目、リスタートを迎えると坪井は隊列をしっかりとコントロール。スパートをかけ、24周目には1分40秒230とファステストラップを更新する。しかし、後方からはセーフティカー時にピットインした#37 宮田莉朋がファステストを更新しながら追撃してきた。残り周回数も少なくなるなか、白熱のトップ争いが始まった。

坪井はトップを死守しようと渾身の力を振り絞ったが、#37 宮田はオーバーテイクシステム残量は少なかったものの、何よりニュータイヤを履いておりペースが優っていた。29周目、メインストレートで仕掛けてきた#37 宮田に対し、坪井は抵抗をみせるも1コーナーでオーバーテイクを許すことに。ファイナルラップに坪井は懸命に首位を追うも及ばず。2戦連続の2位でレースを終えることになった。

一方の阪口は、ペースは苦しかったものの中団で#3 山下、#4 小高一斗と接近したレースを展開。6位でレースを終えることになった。P.MU/CERUMO・INGINGは2台が入賞を果たしたが、一抹の悔しさが残る一戦となった。

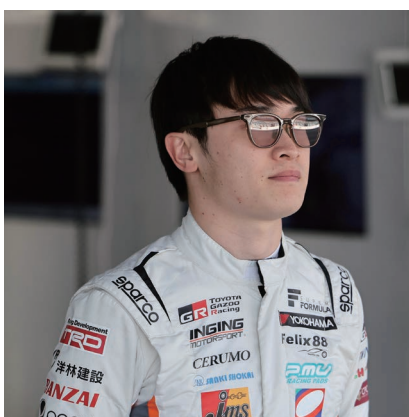


COMMENTS ドライバー／監督コメント



38 坪井 翔 SHO TSUBOI

「悔しい結果となりましたが、レースは支配できていたと思いますし、しっかりと前に出てトップ争いを常にできる状態でレースができたと思います。前回の2位とは異なる、内容が濃い2位だったと思います。正直、あのタイミングでセーフティカーが出られては厳しくなってしまう。なんとか2位で終われましたが、終盤5周は苦しかったです。とはいえこのスーパーフォーミュラというレベルが高いシリーズで連続2位を獲れているのはなかなかないことですし、昨年は苦しいシーズンを送ってきましたが、今年は良い流れで来ていると思います。初優勝が特別なものなのは僕も分かりますので、優勝した宮田選手には今日は素直におめでとうと言いたいですね」



39 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「スタートは良かったですね。第1戦で失敗してから、第2戦で良くなったので、今後も強みになると思っています。その後もオープニングラップで1台を抜くことができたのでそれが良かったですね。ただその後のペースは良くなかったので、6位という結果に比べると内容が悪かったレースでした。またピットインのタイミングを臨機応変に対応してくれたチームに感謝しています。状況を考えたら、6位はこの上ない結果になったのではないのでしょうか。鈴鹿での最上位ですしね。次戦のオートポリスは昨年良い結果を残すことができましたが、今年に向けてはあまり参考にならないかもしれません。とはいえ、やりたいことはあるので、レースに活かしていきたいです」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「坪井選手にとっては悔しいレースになってしまいましたね。戦略としてはすごくうまくいっていましたが、セーフティカーが出てしまったのが大きく響いてしまいましたね。坪井選手は精一杯頑張ってくれましたし、チームも完璧な仕事をしてくれました。とはいえ前回の富士、そして今回とトップを争えているので、こういうレースを続けていれば自分たちの番は回ってくると思います。その点ではポジティブな週末だったのではないのでしょうか。阪口選手についても6位と、昨年の不調からは着実に良くなってきています。今後トップ争いにも加われると思っています。今回は悔しいレースでしたが、その気持ちを次戦にぶつけたいです。応援ありがとうございました」



RACE REPORT

RESULT

リザルト

第3戦鈴鹿 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	37	宮田莉朋	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	30	56'02.944	
2	38	坪井翔	P. MU/CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	30	56'05.966	3.022
3	20	平川亮	ITOCHE ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	30	56'06.348	3.404
4	15	L. ローソン	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	30	56'07.074	4.130
5	3	山下健太	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	30	56'11.653	8.709
6	39	阪口晴南	P. MU/CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	30	56'15.310	12.366
7	4	小高一斗	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	30	56'16.015	13.071
8	36	G. アレジ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	30	56'18.157	15.213
9	55	C. ブリュックバシエ	TGM GP SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	30	56'18.672	15.728
10	12	福住仁嶺	ThreeBond Drago CORSE SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	30	56'19.068	16.124
11	64	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	30	56'19.606	16.662
12	50	松下信治	BYOUBUGAURA B-MAX SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	30	56'21.039	18.095
13	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	30	56'21.241	18.297
14	7	小林可梦偉	Kids com KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	30	56'23.074	20.130
15	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	30	56'23.927	20.983
16	18	国本雄資	Kids com KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	30	56'29.337	26.393
17	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	30	56'29.841	26.897
18	51	R. ハイマン	BYOUBUGAURA B-MAX SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	30	56'37.281	34.337
19	19	関口雄飛	ITOCHE ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	29	55'27.583	1Lap
以上完走 (規定周回数 27 Laps)							
-	53	大湯都史樹	TGM GP SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	19	32'26.149	11Laps
-	1	野尻智紀	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	19	33'29.598	11Laps
-	65	佐藤蓮	TCS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E		D.N.S.	

ドライバーランキング

Rank.	No.	Driver	Total
1	1	野尻智紀	42
2	37	宮田莉朋	38
3	15	L. ローソン	35
4	38	坪井翔	32
5	20	平川亮	22
6	3	山下健太	17
7	64	山本尚貴	8
8	53	大湯都史樹	7
9	65	佐藤蓮	6
10	39	阪口晴南	6
11	7	小林可梦偉	5
12	4	小高一斗	5
12	12	福住仁嶺	5
14	55	C. ブリュックバシエ	5

チームランキング

Rank.	No.	Driver	Total
1		TEAM MUGEN	69
2		VANTELIN TEAM TOM'S	37
3		P.MU/CERUMO・INGING	36
4		ITOCHE ENEX TEAM IMPUL	22
5		KONDO RACING	22
6		TCS NAKAJIMA RACING	15
7		TGM Grand Prix	9
8		Kids com Team KCMG	5
9		ThreeBond Racing	5
10		DOCOMO TEAM DANDELION RACING	3
11		docomo business ROOKIE	2